

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

安浦中学校区 校番 32 学校名 呉市立安浦小学校

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童の育成 ～学ぶ つながる 役に立つ～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) ○ 自校や郷土に誇りと愛着をもち、地域社会に感謝・貢献する児童の育成 ○ 様々な人々と協働して、主体的に問題解決に取り組む児童の育成 (ビジョン)(将来の学校像) 予測困難な時代に一人一人が未来の創り手となることが求められています。安浦中学校区は、よりよい小中一貫教育を通じてふるさとを愛し、よりよい社会を創るという目標を共有し、防災教育と地域に根ざした主体的な学びを推進し、地域と連携・協働しながら、未来の創り手として必要な資質・能力を育みます。
----------	--	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	学校の使命である「学力の定着」と「社会性の育成」のための基盤づくりはもちろん、学校文化の創造・継承や保護者・地域に信頼される学校づくりがさらに求められる。平成30年7月の豪雨災害で安浦は大きな被害を受けた。そこで、自分の命は自分で守る能力を身に付けるとともに、人や地域との絆の大切にし、ふるさと安浦の未来の創り手として、災害に強い町づくりを推進していく資質や能力を育成することが責務である。また、学力調査結果から、生きて働く知識・技能の確実な定着とともに、知識・技能を活用していく思考力・判断力・表現力の育成が課題であった。そのため、「チーム安浦」として全ての教職員がベクトルを合わせ組織的に取り組み、学校教育目標やミッション・ビジョンを具現化するために、「防災教育」「地域に根ざした主体的な学び」「ICTを活用した考える授業への改善」の充実を図っていく。
------------------------------	--

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」「感謝・貢献」
------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	主体的・対話的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図る。 貫	思考力・判断力・表現力を高める。	子どもの問いを生かし、「思考の型の活用」や「根拠を基に理由付けた発言や主張」を取り入れた授業づくりを行う。	国語科の思考力・判断力・表現力を見取るテスト70%以上の児童の割合 算数科の思考力・判断力・表現力を見取るテスト70%以上の児童の割合	75%	82%	109	A	84%	112	A
		学びの基礎・基本を定着させる。 貫	「ぐんぐんタイム」「ぐんぐん教室」を充実し、AIDリルを活用するなどして基礎的・基本的な内容の定着を図る。	国語科・算数科の学期末テストの知識・技能で60点未満の児童の割合	10%未満	10.5%	95	B	5.50%	181	A
* 豊かな心	感謝と貢献の心をもち、協働して取り組むことのできる心を育む。	礼節と規範意識を醸成する。	パワーアップ週間を中心に「挨拶・右側歩行」を徹底する取組を行い、「安浦スタンダード」を徹底させる。	パワーアップカードで肯定的に評価した児童の割合	85%	79%	93	B	89%	104	A
		仲間や学校、地域への感謝・貢献の心を育てる。	縦割り班活動や学校行事・地域への取組など、「協働」の心を育てる活動を推進する。	学級や学校・地域の役に立てたと言える児童の割合	85%	93%	109	A	95%	117	A
** 防災教育	「自分の命は自分で守る」力を育成するとともに、地域の防災に貢献する。 貫	「自分の命は自分で守る」力を育成し、保護者や地域の防災意識を高める。 貫	防災週間や防災参観日を設け、防災教育(マイタイムラインの確認・見直し、学年に合わせた取組)を各学級で行う。また、各学級で行った防災教育の実践を増やす。	「自分の住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合」と「災害時に避難避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合」の平均	100%	80%	80	B	86%	86	B
			マイタイムラインの確認・見直しを行うとともに、防災参観日を利用して保護者や地域の防災意識を高める取組を行う。	「災害に対する備えができて」と肯定的に評価した保護者の割合	80%	71%	89	B	67%	83	B
* 働き方改革	業務改善を進め、働き方改革を推進する。	タブレットを効果的に活用し児童と向き合う時間を確保する。	タブレット端末についての校内研修を定期的に行い、タブレットの効果的な活用を推進する。	児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	90%	78%	87	B	92%	102	A
			校務分掌をバランスよく分担し、毎日18時30分退校(水曜日は18時)を徹底する。	時間外勤務が年間平均45時間を越えない教職員の割合	80%	66%	83	B	70%	88	B